

遮熱資材の被覆がイチゴの腋花房の開花に及ぼす影響

背景と目的

近年、10月中下旬の気温が高く、イチゴ促成栽培で一次腋花房の開花が遅れる事例が散見されます。熱線をカットできる遮熱資材を被覆することで培地の昇温抑制が期待できることから、イチゴ‘古都華’において、遮熱資材を被覆することによる一次腋花房の開花遅延抑制効果および適切な被覆期間を検討しました。

結果

2024年7月11日に、イチゴ‘古都華’の子株を受け、7月27日にランナー切除しました。9月26日にプランター（培地量22 L）に5株ずつ株間20 cmで定植し、遮熱資材（青天張Bタイプ、（株）能任七、遮光率22%）を被覆したハウスに設置しました。1週間ごとにプランターを遮熱資材を被覆していないハウスへ移動させ、被覆期間 1 週間～6週間の処理区を設けました（表1）。各試験区30株を供試しました。

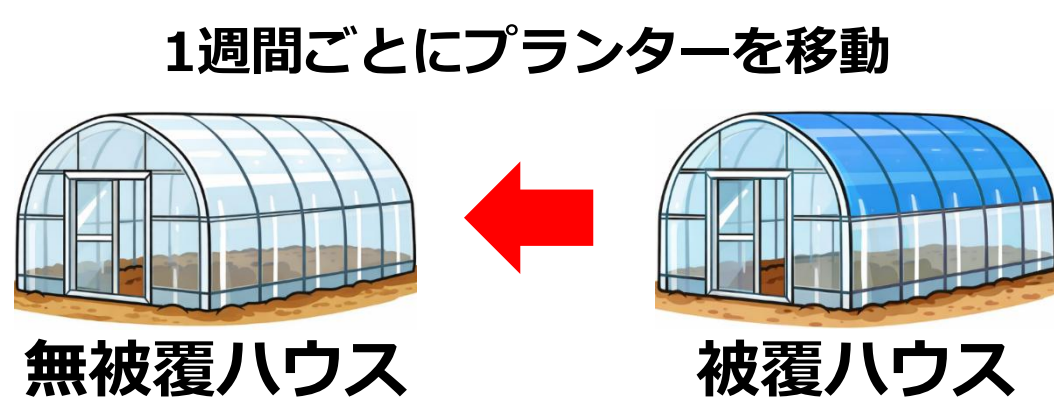


表1. 試験区と遮熱資材被覆期間

試験区	被覆期間		
1週間区	9/26	-	10/3
2週間区	9/26	-	10/10
3週間区	9/26	-	10/17
4週間区	9/26	-	10/24
5週間区	9/26	-	10/31
6週間区	9/26	-	11/7

表2. 遮熱資材の被覆が培地温度に及ぼす影響

測定期間	被覆の有無	培地温度 (℃)	
		日最高	日平均
10/3 - 9 (定植2週目)	被覆	27.5	23.4
	無被覆	29.6	24.0
	差	2.1	0.6
10/10 - 16 (定植3週目)	被覆	27.2	21.5
	無被覆	30.0	22.5
	差	2.8	1.0
10/17 - 23 (定植4週目)	被覆	25.2	21.4
	無被覆	27.1	22.2
	差	1.9	0.8
10/24 - 30 (定植5週目)	被覆	22.0	19.3
	無被覆	22.7	19.7
	差	0.8	0.4
10/31 - 11/6 (定植6週目)	被覆	21.4	17.9
	無被覆	23.0	18.8
	差	1.7	0.9

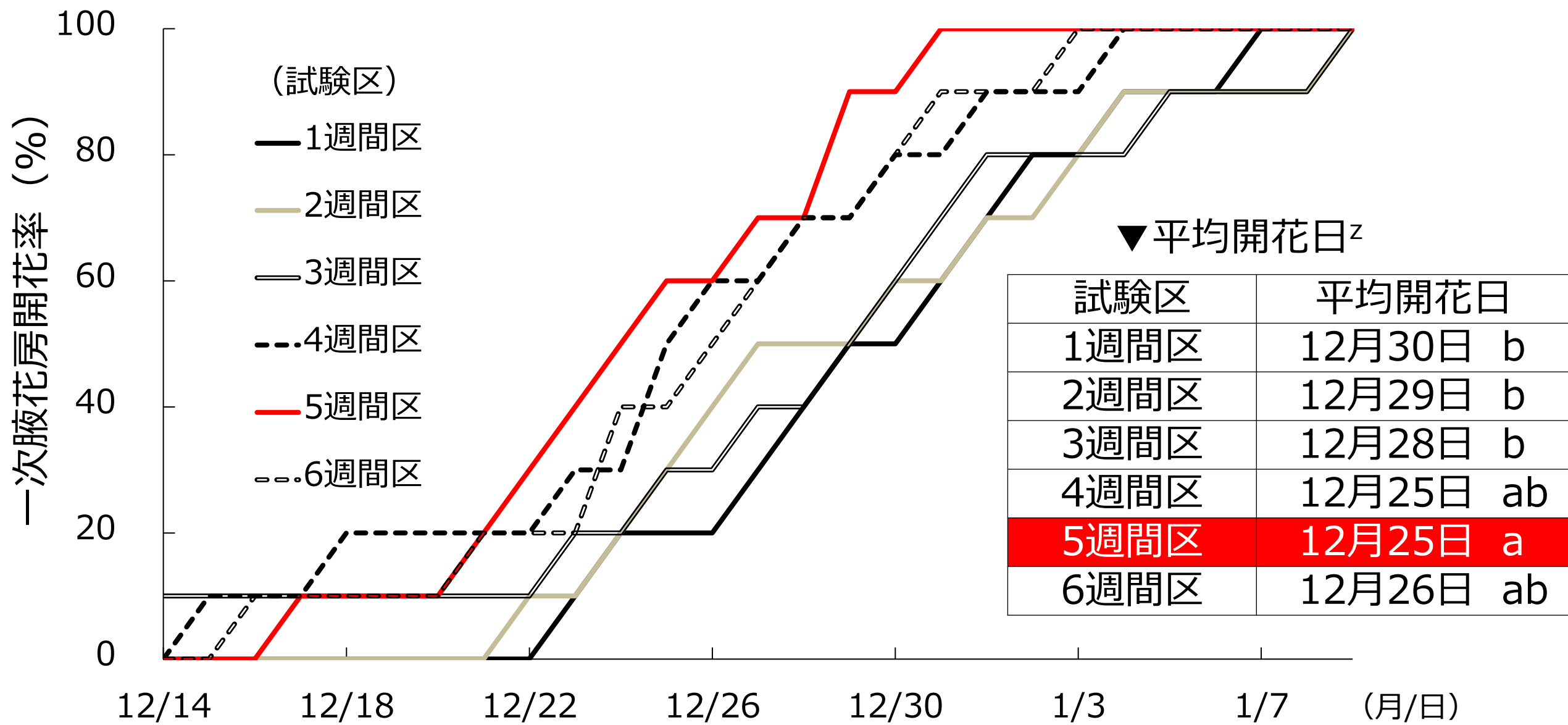


図1. 遮熱資材の被覆が一次腋花房第1花の開花に及ぼす影響

^z 定植日から開花日までの日数をログランク検定により多重比較（Holm法）し、異なるアルファベット間では5%水準で有意差あり。

- 遮熱資材の被覆により培地温度で日最高値0.8~2.8℃の昇温抑制効果が得られました（表2）。
- 被覆期間による草丈、葉身長、葉幅、クラウン径、葉色に差はありませんでした（データ省略）。
- 一次腋花房の開花は1週間区に比べて5週間区で5日早くなりました（図1）。

定植後に遮熱資材を10月末までの5週間被覆することで、生育に影響を与えずに一次腋花房の開花遅延を抑制できると考えられます。

まとめと今後の取り組み

近年、秋期の高温によりイチゴの開花が遅延し、収穫が遅れることが問題となっています。本試験では、定植後に遮熱資材を5週間程度展張することで一次腋花房の開花遅延を抑制できることが示唆されました。今後も引き続き、イチゴの高温対策技術について検討していきたいと考えています。

（2025年12月作成）